

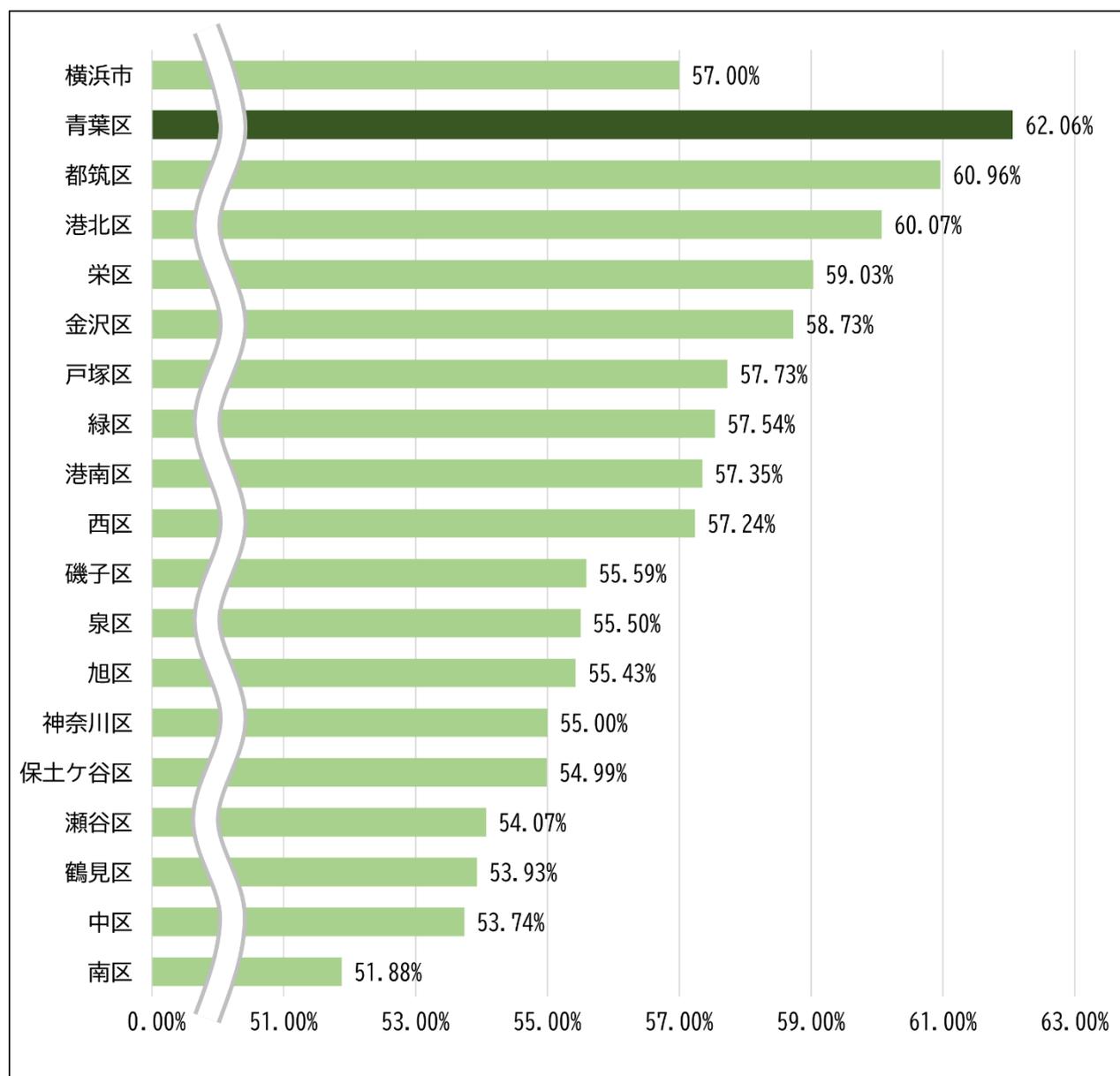


## 第51回衆議院議員総選挙 執行！

令和8年2月8日に第51回衆議院議員総選挙が執行されました。推進員の皆様には、期日前投票所の立会人をお願いいたしました。短い期間での選任でしたが、ご協力ありがとうございました。

青葉区の投票率は、市内第一位の62.06%でした。他区の投票率等は以下グラフにてご確認ください！

<第51回衆議院議員総選挙 市・区別投票率（小選挙区）※在外選挙を含む>



# 県立 市ヶ尾高校文化祭に出展！

令和7年9月6日（土）、7日（日）に、市ヶ尾高校の文化祭にて啓発ポスター、選挙クイズの掲示、オリジナル啓発ポケットティッシュの配布を行いました。ポケットティッシュは、1,000個作製しましたが、全てなくなり、青葉区明推協を広く周知することができました。



# 青葉区民まつり 2025 に出展！

令和7年11月3日（月・祝）に、青葉区民まつりに出展し、模擬投票とアンケート、啓発物品配布や着ぐるみでの会場巡回を行いました。小さなお子様から大人方まで、皆様にえら坊を知っていただくことができました。

当日は、横浜市選挙管理委員会のイコットプロジェクトに所属している大学生の方2名にもお手伝いいただきました。

模擬投票では411票の投票があり、開票と集計は、当日お手伝いいただいた推進員の皆様が行って下さいました。ご協力ありがとうございました！

## 投票結果

2位 えら坊  
(93票)



青葉区選挙マスコット  
キャラクター

1位 なしかちゃん  
(286票)



青葉区マスコット  
キャラクター

3位 イコット Jr.  
(28票)



横浜市選挙マスコット  
キャラクター

※無効票…4票



## 出前授業・模擬投票 3校で実施！

黒須田小学校、山内小学校、鴨志田第一小学校にて、出前授業・模擬投票を行いました。模擬投票のテーマは「給食選挙」や「デザート選挙」とし、投票内容が実際の学校生活に反映される内容としていただきました。当日は、近隣の推進員さんにお手伝いいただきました。ありがとうございました！



## 作文コンクール 入賞作品決定！

今年度は、8校の中学校から、計243作品の応募がありました。一次審査にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

11の入賞作品中、会長賞、委員長賞、区長賞の3作品を次のおまけページでご紹介いたします。他の入賞作品は、ぜひHPでチェックしてみてください！



## 企画・運営チーム会議 実施！

令和8年3月9日（月）に令和7年度企画・運営チーム会議を行いました。

令和7年度の選挙や啓発の振り返り、令和8年度の計画について話し合いをしました。

ご興味がある方はぜひ事務局までご連絡ください！



### 編集後記

日中は暖かい日が増えてきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

皆様の任期は令和9年3月までです。残り一年、よろしくお願いたします！※交代がございます場合は、事務局までご連絡ください。



HPはこちら

過去のイコット通信はHPで見られるよ！

あおばイコット通信  
令和8年3月号

<編集・発行>  
青葉区明るい選挙推進協議会

<事務局>  
青葉区総務課統計選挙係  
TEL:978-2205 FAX:978-2410  
MAIL: ao-toukei@city.yokohama.lg.jp



# ☆おまけ☆ 作文コンクール入賞作品紹介！

## 会長賞

若い世代が立候補するために

鴨志田中学校

三年 森次 萌依

私は今回選挙に立候補できる被選挙権の年齢について考えてみました。その理由は7月に参議院選挙が行われテレビでも多くの時間を使って選挙特番が放映されていました。その中で若い世代の政治への関心が下がっているという意見や報道が多かったです。私はなぜ選挙は十八歳からなのに立候補できる被選挙権は二十五歳や三十歳なのかについて疑問に感じたからです。そこで、私は日本の被選挙権年齢と世界の違い、現在の被選挙権の課題、について調べてみました。

日本の選挙の始まりは1890年で当時被選挙権は三十歳以上、選挙権は二十五歳以上で、かつ直接国税を十五円以上納めた男性にしか与えられていませんでした。現在のそのような納税額に関係なく男女が平等に投票が行えるようになったのは1945年以降です。

現在の日本には、主に「国政選挙」「地方選挙」があります。国政選挙とは国の政治を動かす国会議員を決めるための選挙で、「衆議院議員総選挙」と「参議院通常選挙」の二種類です。どちらも選挙権は満十八歳以上ですが、立候補できる被選挙権は衆議院が満二十五歳以上、参議院が満三十歳以上です。地方選挙のうち、主な「地方議会議員選挙」「知事・市区町村長選挙」は、どちらも選挙権は満十八歳以上ですが、地方議会議員の被選挙権は満二十五歳以上で、都道府県知事・市区町村長は満三十歳以上です。

一方世界では約三割の国で被選挙権が十八歳以上となっていて、経済協力開発機構(OECD)の加盟国に限ってみると過半数の国で被選挙権が十八歳以上です。イギリスでは、若者の政治参加を積極的に推進するための「Young Mayor」という制度があり、学校などを通じて選ばれた若者が、市長や市議会などに様々な助言を行う仕組みもあります。世界では十八歳から有権者として投票できるだけでなく、政治家を目指し、若いうちから立候補できることがあたりまえになっているのかもしれない。

ではなぜ日本の被選挙権にはギャップがあるのでしょうか。そこには三つの課題があると思います。一つ目は現在の教育は「有権者の視点」までは来ていないこと。二つ目は経済的課題で、衆議院選挙を例にとると供託金という資金が約三百万円必要になること。三つ目は学業との両立を図る場合、周囲の協力と理解が必要になることです。なので日本では検討はすすんでいるものの、選挙権と被選挙権の年齢にはギャップがあります。

私は政治家が一定の年齢の人に固定されず、様々な世代の人の意見やアイデアが反映されるように被選挙年齢は引き下げられると良いと思います。そのためにも私は公民の授業を通じて選挙や政治に関心を持ち、毎日の暮らしの中で解決したり改善したいことについて、学校の友達や先生、家族と対話してみるのが大切なのではないかと思いました。

## 委員長賞

一票の積み重ね

鴨志田中学校

三年 山田 遥

「明日、演説会あるよね?」「誰に入れるか迷うね。」

中学校で生徒会役員選挙が近づくと、こんな言葉がよく会話に出てくる。私は、中学校で選挙管理委員を務めている。三年間活動してきて感じたのは、学校では多くの生徒が選挙に関心を持っているのではないか、ということだ。立候補者の演説には真剣に耳をかたむけているし、みんなよく考えて投票する。それなのに、最近、ニュースで若い人の選挙離れがさげばれているのをよく見る。学校の選挙と実際の選挙で、関心に差がでるのはどうしてだろう。

選挙に行かない理由を調べてみると、若い人の多くは「選挙を身近に感じない」「自分が投票しても政治が変わると思えない」「自分が投票しても政治が変わると思えない」などの意見を挙げていた。

まず、「なぜ選挙が身近に感じないのか」ということについて考えてみた。中学校では、目安箱などを通して伝えた意見に丁寧に返事がくるし、生徒会の活動もよく目にするので、自分が投票した結果を実感できる。生徒はみんな、選挙を身近に感じているのではないだろうか。それに比べ、日本の政治で国民の意見が取り入れられていると実感することはあまりない。政治と国民を密に繋げ、もっと気軽に意見を伝えられる仕組みや、これまでの活動を具体的に知ることができる場があったらいいなどと思う。政治の「見える化」をすることで、投票することの意義をより自分事として考えることができるのではないだろうか。

次に、「自分が投票することで政治は変わるのか」ということについて考えてみた。二十代の人たちの投票率は約三十%。およそ三人に二人は投票に行っていない。しかし、投票をしないということは自分の意見を何も言わないのと同じだ。「変わってほしい」と思うことがあるなら、まずは自分たちが動くべきだろう。たしかに、中学校の少ない人数で行われる生徒会役員選挙に比べ、一億人以上が投票権を持つ国の選挙は、一人の投票で結果が大きく変わるわけではない。しかし、たくさん人の思いが集まって「国民の意見」となるのではないだろうか。たかが一票、されど一票。その一票の積み重ねでより良い社会へと変えていくことが出来るはずだ。「どうせ意味はない」と思うのではなく、選挙を通して自分の意見を伝えることが大切だろう。

私たちは直接国を変えていくことはできないけれど、投票という形で思いを託す。投票するということは、自分の意見を示すということだ。一人ひとりが選挙を自分事として考え、動くことで、社会は良い方へ変わっていくはず。三年後、有権者になり、選挙を通して自分の思いを伝えられるようになるのを、楽しみに待っている。

## 区長賞

SNSから始まり、広がる選挙への関心

鴨志田中学校

三年 島原 未来

中学生である私たちが政治や選挙へ関心をもつことは、非常に大切だと考えています。というのも、7月の参議院選では消費税や給付金、医療・年金や子育て支援策、外国人政策などが選挙の争点となっていました。これらは私たちの直近の日々の生活に大きな影響を与えます。

また、選挙の結果として選ばれた政党が、今後の日本の未来にどのような影響を与える主張をしているか、よく知っておかなければならないと思います。例えば憲法改正についての議論などには無関心ではいられません。日本では簡単ではないといってもお隣の韓国では徴兵制がしかれていてBTSメンバーの兵役についてのニュースも目に見えています。だから絶対におらないこととは言えないと思うので、どのような議論がなされて、どういう方向へ向かおうとしているのか知ろうとすることは大事だと思います。

私は普段ほとんどの情報をSNSから得ています。7月の選挙の際は、SNSでは外国人問題に関する議論が活発でした。SNSでは専門家や活動家の意見を簡単に知ることができるので自分が普段知らないような情報も得られます。実際、そうした情報をきっかけに選挙への関心が高まりました。

この作文を書くにあたり、もっと選挙について知りたいと思い私は「投票マッチング」というサイトを試してみました。このサイトではいくつかの質問に答えると自分の考えに近い政党が表示される仕組みでした。結果として関心をもっていないかった政党が出て驚きましたが、その政党の考え方や主張を調べてみると確かに自分の考え方と共通する部分が多いことが分かりました。

その後、家に届いていた選挙の広報誌を読んで自分が一番良いと思った候補者は投票マッチングで示された政党と一致していて納得すると同時に、これまで見ていたSNSで得ていた情報には偏りがあると気づきました。SNSはフィルターバブルが起き自分が興味を持つ情報ばかりが流れてきます。これでは投票に必要な幅広い知識は得られません。私は、今後はネットニュースや新聞、テレビなどいろいろな角度から情報を集め、異なる立場の意見や自分の関心のある分野以外の情報を知ることが必要だと考えるようになりました。

三年後、私は十八歳になり投票権を得ます。以前は「投票に行かないなんてありえない」と単純に思っていました。実際には知識と情報収集が必要だと分かりました。これからはスマホを触る時間を減らし、ニュースを見たり、意見を比較したりして、自分の考えを深めたいです。そして、選挙は未来を決める重要な機会であるからこそ、しっかり準備して臨み、結果を受け止めて次の行動につなげていきたいです。政治に関心を持ち、選挙に参加することこそが、よりよい日本をつくる第一歩だと信じています。